

富山市の平地積雪断面測定資料報告 1986～1987年 冬

著者	黒田 久喜, 石坂 雅昭
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	11
ページ	141-143
発行年	1987-11-30
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=537

富山市の平地積雪断面測定資料報告 1986～1987年冬

黒田 久喜・石坂 雅昭
富山市科学文化センター

はじめに

この報告は、1986～1987年の冬に実施した積雪断面観測の結果を示したものである。毎月5のつく日あるいは、その近日を観測日とした。今冬は、記録的な暖冬で観測した日はわずか3日であった。

測定結果

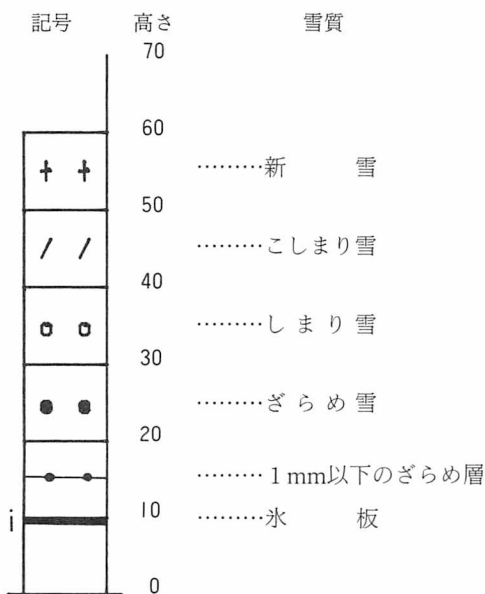
測定場所は、富山市城南公園の草地である。測定項目は、積雪の層構造、雪質、温度、密度、硬度、粒度、および全積雪水量である。測定結果は表2に示した。表中の雪質および粒度は、表1に示した記号を用いてあらわした。また、「高さH」は地上高であり、密度G、

硬度R、雪温 Ts が測定された位置を示す。ただし、密度の場合は、角形サンプラーで採雪された雪の上面の高さで表わされている。硬度の測定には、木下式硬度計を用いた。図1は、富山地方気象台で測定された日最高気温、日最低気温および積雪深等を示したものである。

文 献

富山地方気象台編, 1986. 富山県気象月報, 12月号.
———, 1987. ————, 1月号, 2月号, 3月号.

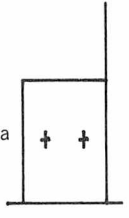
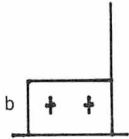
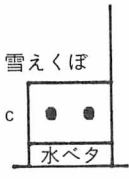
表1 記号の説明



積雪の粒度	
記号	粒 度
a	0.5mmより小さい
b	0.5～ 1.0mm
c	1.0 ～ 2.0mm
d	2.0 ～ 4.0mm
e	4.0mmより大きい

表2 1986～1987年冬の積雪断面観測の結果

成層図に用いた記号の意味は表1に記した。高さHの項の最上部の値は積雪深を示す。
 \bar{G} は、スノーサンプラーで測定した積雪水量 H_w を積雪深で除した値である。

年月日 時刻 天気	成層図			高さ H cm	密度 G $g \cdot cm^{-3}$	硬度 R $g \cdot cm^{-2}$	雪温 Ts $^{\circ}C$	含水率 W %	全積雪水量 平均密度 気その他 $\frac{H_w}{G}$ Ta
	粒度	雪質	高さ						
1987 I-26 9:30 }				16 10 2 0	0.09	10	0 -0.2 0	全層 かわき	Ta = -1.3°C
II-17 9:00 } 曇				7				全層 ぬれ	$H_w = 0.89g/cm^2$ $\bar{G} = 0.14g/cm^3$
III-5 15:40 } 16:30 晴				11	0.44	36		全層 ぬれ	$H_w = 5.58g/cm^2$ $\bar{G} = 0.5g/cm^3$ 融雪はげしい

富山市の平地積雪断面測定資料報告 1986~1987年冬

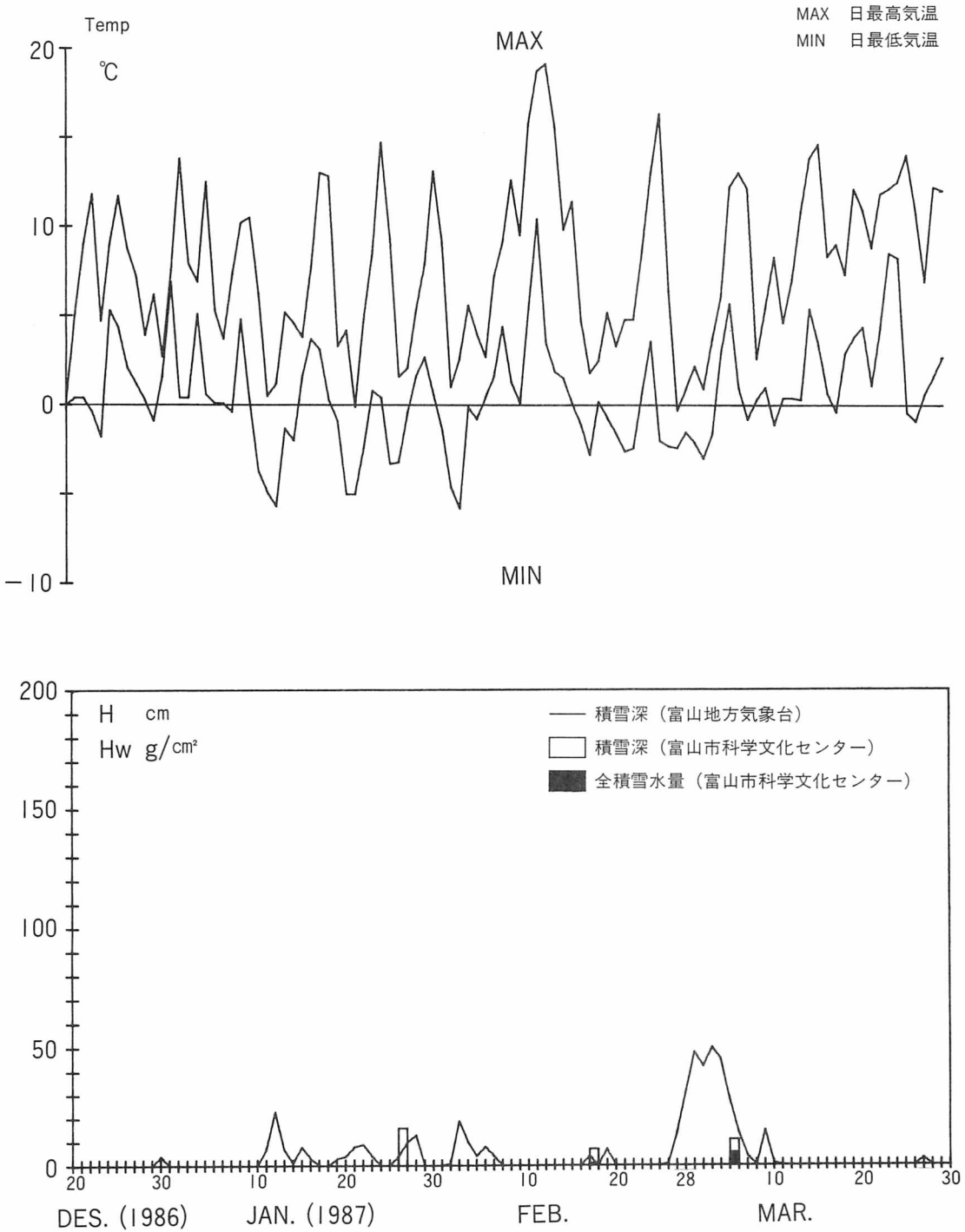


図1 日最高気温・日最低気温の日変化および積雪深, 全積雪水量